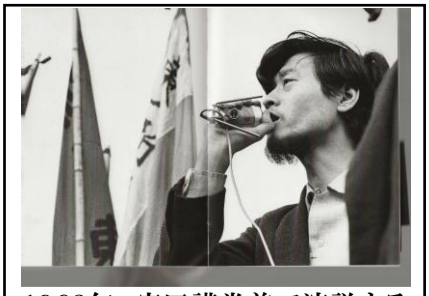
2024 年 12 月 1 日 N0.197

中国業務通訊

山本義隆さんのこと

私は１９６８年に東京外国語大学に入学し、１９７２年に卒業した。私たちの大学時代、青春時代は学生運動とビートルズ（The Beatles）の時代だった。

１９６８年１月に東京大学大医学部で研修医の待遇改善運動から紛争が生じ，医学部当局は学生・研修医の処分を行った。処分に間違いがあったが、医学部当局は間違いを認めなかった。処分撤回を求める学生が ６ 月に安田講堂を占拠する。７月には東京大学全学共闘会議（山本義隆議長）が結成され、学生運動は東大全体、そして全国の大学に広がった。翌年１９６９年１月１８、１９日の２日間かけ、東大当局が要請した警視庁の機動隊が安田講堂に立てこもる学生を排除した。この安田講堂陥落により東大紛争、学生運動は終息に向かった。



1968年、安田講堂前で演説する山本義隆東大全共闘議長。山本さん27歳。

私は積極的に学生運動に加わらなかったが、大学は学生運動により、１年間休学となった。４年の在学中で、勉学期間は３年だった。中国語学科６０名の内、４年後に卒業した者は私を含む２０名強だった。大学を去った者、他の大学にいった者もいたが、残りの多くは翌年に卒業した。この４年間に同級生の３人(男１人、女２人)が自ら命を絶った。人生に行き詰まったのか、社会への憤りだったのか、命を絶った理由は誰も知らない。ゲバ棒ではなく麻雀牌を握り、政治と離れた世界で青春時代を謳歌していた同級生もいた。学生運動は結局のところ日本の政治、社会を何ら変えることなく、体制側に潰されてしまった。

私は１９７２年から社会人となった。月に５万６千円の初任給は毎年上がっていった。当時、私たちはよく勉強をして一流大学を出て、一流会社に就職し、定年まで勤めれば、結婚して子供たちを給与で大学に通わせ、マイホームが得られ、老後の心配をすることは無いと考えていた。大学の同級生も、会社の同期生もこの夢を実現した。彼らはみな勝ち組に属すると思っているだろう。

2017年に私は山本さんに会った。山本さん76歳。

その後、自民党政権は劣化、腐敗し、日本の全ての組織も劣化、腐敗してしまった。経団連は無能な経営者、ボケ老人のたまり場にすぎないだろう。良識と品性を備えた経営者は日本には一人もいない。いま日本の若者が自分と自国の将来に夢も、希望も持てないのは当然だと思う。

山本義隆さんの略歴だ

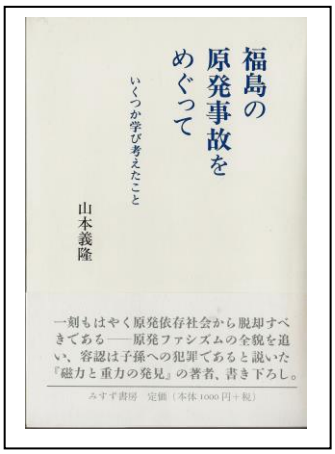
１９４１年　大阪府生まれ
１９６０年　大阪府立大手前高等学校卒業
１９６４年　東京大学理学部卒業

その後、同大学院で素粒子論を専攻、京都大学基礎物理学研究所に国内留学する。

山本さんは大学院時代から秀才の誉れが高かった。学生運動に関わらなかったらノーベル賞級の物理学者となっていただろう。東大全共闘議長として学生運動をしたために東大理学部大学院を中退し、物理学者の道を閉ざされ、駿台予備校の物理学の教師として生活の糧を得る。

山本さんは安田講堂占拠事件により警察から指名手配を受け、地下に潜伏するが、１９６９年９月　日比谷での全国全共闘連合結成大会の会場で警察当局に逮捕された。１９７０年１０月に保釈されるが１９７１年３月に再逮捕。１９７３年に執行猶予付き有罪判決。判決確定後は大学に戻らず、予備校の教師となり、同時に科学史の研究を続ける。

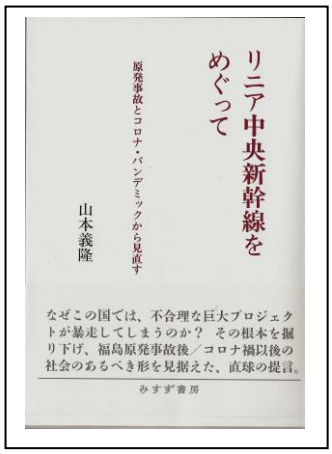
自らの研究室を持たない中、科学史研究の集大成となる３部作を完成させた。『磁力と重力の発見』（２００３年　全３巻　みすず書房）。この本は第 1 回パピルス賞、第 57 回毎日出版文化賞、第 30 回大佛次郎賞を受賞した。『一六世紀文化革命』（２００７年　全２巻　みすず書房）。『世界の見方の転換』（２０１４年　全３巻　みすず書房）。



山本さんは年を経ても日本の政治、社会への関心が変わることは無かった。２０１１年３月の東日本大震災による東京電力福島第２原子力発電所爆発事故を受け、同年８月に「福島の原発事故をめぐっていくつか学び考えること」（みすず書房）を、２０２１年４月に「リニア新幹線をめぐって　原発事故とコロナ・パンデミックから見直す」（みすず書房）を、著した。原発とリニア新幹線の問題と危険性を科学的に分析した本だ。原発とリニア新幹線は戦後、一部の人間の主導により国家をあげて始めた２大国策プロジェクト、国策事業だ。

山本さんは「福島の原発事故をめぐって」にこう書く。

「かくして政・財・官が一体となった“怪物的”権力が何の撃肘（せいちゅう）もうけることなく推進させた原子力開発は、そのあげくに福島の惨状を生み出したのであった」（撃肘：わきから干渉して人の自由な行動を妨げること）



原発は正力松太郎（１８８５～１９６９　読売新聞社社主）が政界に進出し、国策事業として推進した。１９５６年に初代の原子力委員長、初代の科学技術庁長官(鳩山一郎自民党内閣)に就任した。原発利権に群がる政・財・官と原子力研究者・学者から成る「原発ムラ」がいまも生き続け躍している。

リニア新幹線は葛西敬之(１９４０～２０２２　東海旅客鉄道（JR東海）代表取締役社長・会長)が個人の執念で推進した。国土交通省は２０１１年に東京一名古屋間、２８６KMのリニア新幹線を２０２７年に開業させると決定した。ＪＲ東海の皇帝と言われた葛西敬之が盟友・安倍晋三首相と決めた国策事業だ。

戦前から戦後にかけて児玉誉士夫、笹川良一というフイクサーが日本の政治を仕切ってきた。戦後は正力松太郎、葛西敬之というフイクサーが日本の政治を仕切ってきた。正力松太郎は表社会から、葛西敬之は裏社会から日本の政治を支配した。児玉と笹川は野心と欲望の赴くまま、日本と言う国家を弄んだ。正力と葛西もまた野心と欲望の赴くまま、日本と言う国家を弄んだ。

山本さんの言葉

「わたしたちは若い頃、戦前の人たちにたいして、なんで日本の戦争やファシズムを止められなかったのかと言ってきました。同じことを私たちは、今の10代や20代の人たちに言われるのではないかと、正直、思っております。私はこの間、原発について、大きな集会や何度か金曜日の夜に国会前の行動に参加してきましたが、ときに高校生や大学生が発言しています。その人たちに言われたら、返す言葉がありません。何もしてこなかったわけではないけれど、少なくとも結果的には3・11の破局を防げなかったのであり、その点では悔しい思いもあれば、情けない思いでいっぱいです。」（２０１５年「私の１９６０年代」株式会社週刊金曜日）

子供たち、孫たちにいい日本を残すことが私たち老人世代の義務と責任だと思う（横井幸夫元東レ株式会社）